

総務省が進める「光の道構想」

2015年ごろを目途に、全国すべての世帯でブロードバンドサービスを利用できる社会の実現を目指した構想。今後整備すべきインフラとして、電子政府、教育、医療などの利活用を通じて豊かな国民生活を実現させるため、将来を見越した国家目標として「100Mbps以上」のインフラを整備・普及すべきと考えられている。現在、日本のブロードバンドの主力は、光回線やケーブルインターネットなど超高速ブロードバンドへと移行しつつある。既に国内の90%以上の世帯でFTTHをはじめとする超高速ブロードバンドが利用できる環境にある。しかし、山間地域や離島など採算性が低い残り10%の地域については未整備のままとなっている（本町の全域は、未整備地域の10%に含まれる）。基本的な考え方として、民間主導で基盤整備がなされることが原則。だが、採算性の低い地域に民間が参入する可能性は低い。このため未整備地域の基盤整備を促進するため、「公共サービス（医療、教育、行政など）」を実現させるために必要な「ブロードバンド基盤」については、地方自治体などが整備を進めるものとし、国は補助金など財政的な支援をするとしている。

情報化アンケートを2回実施 推進すべきという意見が多数



企画課
森下陸夫課長

町では昨年、町内の「情報化」を進めるべきか、住民の皆さんの意向を確認するため2回のアンケート調査を実施しました。1回目は全世帯と町内100事業所を対象として実施したところ、情報化を「推進すべき」という回答が住民：51%、事業所：79%を占めました。その後、基本設計を作成した段階で、具体的な内容を盛り込んだ2回目の調査を実施。無作為に1000世帯を抽出したところ、86%の人が「賛同する」「おおむね賛同する」という回答でした。

町ではこれらの結果から、情報化は必要であると判断し、本事業を進めています。

川根本町

ADSLが主流
一部地域ではISDNも

旧川根町

ADSLが主流

旧金谷町

ADSLが主流

旧島田市

市街地は光ファイバ、それ以外はADSLが主流

近隣地域のブロードバンド整備状況イメージ

島田市の市街地エリアは民間のケーブルテレビ会社などの超高速インターネットを利用しています。しかし初倉エリア、旧金谷町エリア、神座以北エリア、旧川根町エリアでは、今もADSL回線が主流となっています。川根本町はADSL回線が主流となっていますが、一部ではISDN回線を利用している地域もあります。

町では昨年、町内の「情報化」を進めるべきか、住民の皆さんの意向を確認するため2回のアンケート調査を実施しました。1回目は全世帯と町内100事業所を対象として実施したところ、情報化を「推進すべき」という回答が住民：51%、事業所：79%を占めました。その後、基本設計を作成した段階で、具体的な内容を盛り込んだ2回目の調査を実施。無作為に1000世帯を抽出したところ、86%の人が「賛同する」「おおむね賛同する」という回答でした。

町ではこれらの結果から、情報化は必要であると判断し、本事業を進めています。

FWA…無線による加入者系データ通信サービスの一つ。数Mbpsから数十Mbpsの高速データ通信が可能。

光は待っていても来ない。

chapter
現状の把握

光ファイバを利用した超高速大容量通信の普及が進んでいる。しかし本町を含む近隣地域では、未だADSL回線が主流であり、今後も、民間事業者による光ファイバ整備は期待できないといわれている。

時代と共に進む情報化

自宅のパソコンを使っているときに画像や映像を開こうとすると、なかなか表示されずストレスを感じてしまう。ときにはパソコン自体がフリーズして動かなくなってしまう…。光回線の通信を想定して、容量が大きくなりつつある映像や画像を、従来のISDN回線やADSL回線で開こうとすると、しばしばこういった状態を引き起こす。

情報化社会が進むにつれ、その通信手段も進化し続けている。

一般家庭にインターネットが普及し始めた1995年ごろ。接続方法はアナログ回線やISDN回線を利用したダイヤルアップ接続が主流だった。

21世紀に入ると、政府によるE-Japan[e-japan]構想の策定が後押しし、月額数千円程度で常時接続が可能なADSL回線やケーブルテレビなどの「ブロードバンドサービス」が普及し始める。

ADSL回線は、既存の電話線をそのまま利用できるため工事の手間が少なく済む。また年を追うごとに通信速度は増し、サービスも充実化が図られていった。ケーブルテレビやADSL回線を利用できる地域も急速に拡大し、

その加入者も激増。2004年時点で、その普及率は世界トップレベルにまで成長した。

2003年ごろからは月額1万円程度の料金で、光通信や高速化されたケーブルテレビなどにより、転送速度が100Mbps（ベストエフォート※）という、さらに高速化した常時接続サービスが一般向けにスタートした。

これら高速ブロードバンド回線が、都市部を中心に普及する一方で、山間部や離島などでは整備の遅れが目立ち、情報格差という新たな問題が発生し始めていた。

本町の現状はどうだ

本町では現在、主にADSL回線が主流となっているが、一部ではISDN回線を利用している地域もある。ISDN回線はADSL回線と比べ、通信速度が著しく遅い。このため都市部との情報格差のみならず、本町内でも情報の



企画課
山田貴之 広報情報室長

地域格差が生じているのが現状だ。ISDN回線が主流となっている地域では、モバイルデータ通信によるインターネット接続を利用している人もいる。しかし地形的な影響などにより、想定される速度は得られていないようだ。

各地区で開かれた住民説明会でも「携帯電話を利用したモバイルデータ通信を使っているが、期待したほどの速度は出ていない」という声が聞かれていた。

いつか「光」は来るのか

都市部で進む光ファイバのネットワーク。本町にもいつか「光」が来るのだろうか。今後の見通しについて、企画課山田貴之広報情報室長に尋ねた。

「本町では、現在まで光ファイバ網の整備は実現しておらず、今後民間事業者による整備は、残念ながら期待できません。その理由はごく単純に『採算が合わないか

ベストエフォート…最善の努力はするが、提供する品質（速度）を保証するものではありませんという意味。